

## 令和7年度第1回小金井市児童館運営審議会

日 時 令和7年5月20日（火）午前10時00分から午前11時15分まで  
場 所 前原暫定集会施設 1階 A会議室  
出席委員 7人  
会 長 荻上 健太郎 委員  
委 員 太田 吉子 委員 村澤 トキイ 委員  
飯島 知子 委員 山本 賢 委員  
新井 利夫 委員 伊藤 安寿華 委員  
欠席委員 2人  
委 員 小柳 政憲 委員 門脇 利種 委員

---

事務局 児童青少年課長 平岡 美佐  
児童青少年係長 清水 康之  
本町児童館 鈴木 慎一  
緑児童館 森 直人  
貫井南児童館 茂木 翔太  
東児童館 仲村マネージャー

---

傍聴者 1人

## 1 開会

平岡課長

本日はお忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございます。予定の時刻となりましたので、令和7年度第1回小金井市児童館運営審議会を始めさせていただきます。私は、児童青少年課長の平岡と申します。よろしくお願ひいたします。

開会に先立ちまして、門脇委員と小柳委員から欠席の御連絡をいただいております。なお、伊藤委員と太田委員がまだいらっしゃっておりませんが、現時点では会議充足数を上回っております、定刻も過ぎておりますので、先に進行させていただきたいと思います。伊藤委員に関しましては、本日オンラインでの御参加予定となっておりまして、御参加され次第、こちらの会議に参加していただくようお願いしたいと思います。

本日の配付資料についてですが、次第のほか、次第の下部に配付資料の一覧を記載しております。御確認の上、不足がありましたら事務局にお申出ください。

次に、事務局職員の変更についてでございます。今年の4月の人事異動に伴いまして、事務局職員が変更となっておりますので紹介させていただきます。

4月から児童青少年係長となりました清水でございます。

児童青少年係長の清水と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

また、児童館職員の配置に変更がありまして、貫井南児童館の森主任が緑児童館に配置替えとなっております。貫井南児童館からは貫井南児童館 茂木が出席しておりますので報告させていただきます。

最後に、本審議会につきましては、会議録作成のため録音をさせていただいているので、発言の際にはお名前をおっしゃっていただいてから御発言いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

それでは議題に入りたいと思いますので、ここからは会長に進行をお願いいたします。

## 2 議題

荻上会長

皆様、おはようございます。会長をさせていただいている荻上と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、ただいまから令和7年度第1回小金井市児童館運営審議会を開会させていただきます。

初めに、事務局から本日の流れについて説明をお願いいたします。

本日の議題は2点となります。1点目が令和6年度の児童館事業の実施結果について児童館職員から説明をさせていただきまして、その後、質疑応答の時間を設けさせていただきます。

2点目が、児童館の在り方検討の今後の進め方等について事務局から説明をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上です。

荻上会長

ありがとうございました。それでは、本日の議題に入っていきたいと思います。

す。

議題Ⅰ、児童館事業についてを議題といたします。それでは、事務局から御説明をお願いいたします。

平岡課長

本町児童館 鈴木

お願いします。

本町児童館の鈴木と申します。よろしくお願ひします。本日は口頭報告とさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

まず初めに、合同事業の報告をいたします。令和6年度移動児童館「わんぱく号」についてです。令和6年度は貫井南児童館と緑児童館より担当者を出し、実施いたしました。「第一小学校、南小学校地区の児童館のない地域に児童館を」というコンセプトの下、都立武蔵野公園を会場に月1回出張児童館事業を開催してまいりました。参加者は毎月50人前後で、団子作りやお鍋、餅つきといった野外調理企画から巨大滑り台作り、染め物体験、「逃走中」という集団遊びのような様々な企画を行ってまいりました。

次に、4館合同で行うわんぱく団という事業です。こちらは、わんぱく夏まつりの会という市民団体と協力し、毎年夏休みに小学生を対象に行う事業です。都立武蔵野公園に廃材で小屋を建てて、1泊のキャンプに向けてボランティアリーダーと協力し1泊する非日常的な体験を提供する企画となっております。小学生は69人が申し込み、野外活動を体験いたしました。

3つ目の事業は、児童館フェスティバルとなります。この事業も4館合同で行い、小金井市子どもの権利に関する条例にある子どもの意見の表明と尊重、そして、その具現化を基礎とし、準備から当日までの実施までを主体的に関わってもらうことを趣旨として行っています。子どもスタッフによる事業実現に向けた子ども会議は6月に発足し、毎月2回、子ども同士による話し合いが行われてきました。事業当日は、様々な遊びのブース、食べ物の販売、ステージでの発表と大いに盛り上りました。子どもたちが自分たちのやりたいことの実現のために会議をして、当日のスタッフまでを担う子ども主体のイベントとなりました。子どもスタッフは総勢86人、イベント参加者は計856人と大規模なイベントとなりました。

最後に、中高校生世代対象事業です。この事業は、5月5日子どもの日と12月の冬休み期間に行う4館合同の中高生対象の交流事業となっています。5月5日子どもの日には、各児童館の行事や合同行事でいつもボランティアとして協力してくれていたり、今後ボランティアとして期待したい地域の中高校生世代の交流を目的とした事業です。ボランティアを含め計25人が参加し、こちらも都立武蔵野公園で様々なミニゲームを行い、麺の料理を作り、交流しました。

さらに年末に、市の総合体育館で行ったスポーツ大会では、市内の中高校生世代の交流を通じ、各児童館の事業及び合同事業で同世代のボランティアの主体的な活動が今まで以上に活性化し、同世代だけでなく、異世代の縦のつながりを継続させていくことを目的とし、実施しました。ボランティアを含め55人の参加者が、バスケットボールやバレー、ドッジボールなどの球技やリレー

や大縄、借り人競走などの競技をして、児童館ごとにチームで優勝を目指しました。こちらの事業も事前に実行委員会を募り、中高校生たち自身で競技内容やルールについて話し合う機会を設けました。

以上が合同事業の令和6年の報告となります。

続きまして、令和6年度の本町児童館の様子を報告いたします。

乳幼児に対しての事業です。令和6年度の特徴として、コロナ禍が明けて、令和5年度に引き続き、昼食を取って午後まで遊んでいく姿が多く見られ、午前10時から午後2時まで目いっぱい遊んでいく親子の姿が目立ちました。月1回行われる誕生日会などのイベントの日には、地域のボランティアによるフルートやクラリネットの演奏会、絵本の読み聞かせなどを行いました。また、2歳児のグループは木曜日に行い、参加者数は13組、保護者同士協力し合って、まとまり合う活動を行ってまいりました。

小学生に対しての事業です。小学生は、遊戯室という一番広いお部屋で走り回ったり、ドッジボールや卓球、マットなどで存分に遊んでいました。ただし、学年などで遊びの内容が違ったり、時間やスペースについて予約表を使ったり調整をしました。遊戯室の予約を取りたいがため、誰よりも早く来館してくる子どもたちもいました。

グループ活動では、おやつ作りを楽しみに、毎週元気に通ってくれました。また、3月には児童館縁日を開催し、天気が優れないながらも、参加者は250人規模の盛大な開催となりました。

最後に、中高校生世代に対する事業です。中学生以上の利用は、部活のない平日や土曜日、さらに試験期間の前後に利用が多くなります。様々なイベントのボランティアとして関わってくれる中で、小学生から顔を覚えられ、来るたびに、「遊んで、遊んで」と誘われています。それがうれしくて来てくれる中高生以上もいます。また、令和6年度から中学生以上を対象とした夜間開館事業を学期に1回開催し、ボランティアや小学生のときに常連だった子どもたちが、時間に余裕を持ち、遊びに来ることができました。この事業は、夕食を作るみんなで交流するというもので、参加者はとても喜んでいた様子でした。

令和6年度の本町児童館の利用報告は以上となります。

東児童館の仲村です。東児童館の令和6年度の事業についてお話しさせていただきます。

まず、乳幼児の事業についてです。令和5年度から子育てひろばの開場時間を30分早めた9時半からの開場に変えましたが、利用者にもだんだん浸透してきたようで、9時半目がけて来る親子が多くいました。午前9時半から10時の間に来館した親子は令和5年度は延べ250組程度の利用でしたが、令和6年度は430組程度と大変多くの利用がありました。上の子を保育園や幼稚園に送った帰りにそのまま来られてうれしいとの声もいただきました。

また、利用者懇談会で、1階の遊戯室で遊べる日が事前に分かったらいいという御意見が出たため、12月のひろばのおたよりから、使える日をお知らせするようになりました。そのためか、ひろばでは物足りなくなってしまった2歳児たち

が遊戯室を広々使って遊ぶことも増えました。

幼児グループでは、1歳児のグループ活動も2年目も迎え、24組の参加がありました。ふだん子育て広場を利用している親子が多く、自由遊びよりもイベントをしたいという声が多く、ハロウィンパーティーや焼き芋、ミニ運動会などを行い、盛り上がりました。2歳児グループも、木曜日と金曜日の2つのグループで実施でき、少人数でしたが、調理などを行い、楽しんでいました。

小学生に関する事業です。小学生は、3年生まで学童保育所に通っていた4年生の利用が大変多くありました。また、6年生の利用も多く、6年生が低学年の遊び相手をする姿もよく見られました。以前は、遊戯室といえば、高学年が激しくボール遊びをしているという場所だったんですけども、令和6年度は低学年女子がブロックで家を作ったりお菓子を食べたりと穏やかに過ごす姿がよく見られました。一方、高学年は、図書室や工作室で携帯ゲームをずっとしているという姿が去年は多く見られました。また、令和6年度の年度途中から、前庭で一輪車で遊べるようにしたんですけども、それがとても人気で、低学年から高学年まで幅広く遊んでいました。また、フラフープやバドミントンのラケットを新調したこともあり、それに伴い前庭で遊ぶ子がとても増えました。

イベントでは、新しく剣玉教室を始めました。剣玉検定の資格を持つ職員がおり、検定を受けられるので、ふだんは学童保育所に通う子が学童を早退して参加したり、東小学校以外からの参加もありました。

中高生に関する事業です。毎週水曜の夜間開館は、中学校2年生と高校3年生が中心となりました。年度途中から、受験のため高校生は来ない日も増えになりましたが、受験の悩みを話しに少しだけ来館することもありました。参加人数は全体的に中高生は減ったんですけども、中高生向けの遠足と宿泊行事は2回ずつ行って、充実を図りました。

中高生タイムを知ってもらうために、3月の中高生タイムに6年生にお試し参加をしてもらったり、中高生のイチゴ狩り遠足にも参加できるようにしたところ、今年度、その子たちが中学校に入学して、中学校1年生の参加が大変多くなっています。

地域との連携の部分では、ハロウィンパーティーに地域団体に御協力いただいたり、マンガイラスト教室やお化け屋敷、夏期クラブなど様々なイベントに東京学芸大学の学生に協力していただきました。その一方で、長い間活動していた自主グループ、元はといえば幼児グループで仲よくなつた母親たちのグループなんんですけども、お母さんたちが忙しくなつて活動が減り、なくなつたグループもありました。今後は残っている自主グループをサポートしながら、地域の連携を深めていけたらと思っています。

以上です。

貫井南児童館 茂木 贫井南児童館の茂木と申します。よろしくお願ひします。令和6年度の貫井南児童館の活動報告をさせていただきます。

乳幼児に対しての事業です。令和6年度の子育てひろばは父親の利用が多く、

曜日に関係なく、毎週のように父親の方が利用されていました。父親が頻繁に児童を見守ることにより、父親が子育てひろばにいるのが自然になって、ほかの父親が利用しやすいという結果になっていました。また、昨年度と比べて、ひろばで昼食を食べる親子が多くなり、毎日のように昼食を食べていました。令和5年度から毎月行っていた手形足形アートという工作のイベントがとても好評で、毎回参加者が20組ほど参加していました。

幼児グループに関しては、火曜日と水曜日の2グループで実施しました。幼児グループの参加者も、活動後に昼食を児童館で食べていくことが増え、親睦を深めっていました。活動内容としては、保護者の意見を基に、体操講習会や巧技台を使った体操や運動などを行っていました。

続いて、小学生に対しての事業としましては、館内で携帯ゲームやホームゲームで遊んでいる子どもや館庭でサッカーやバスケットボールで遊んでいる子どもが多くいました。小学校や学年に関わらず、様々な世代で交流する関係が見られました。グループ活動とは別で、小学生対象の料理行事も月に1回行っており、毎回数分で申込み定員が埋まるなど、とても人気がありました。

令和5年度から行っている地域の畠活動についても令和6年度も実施し、して夏野菜を作り、児童館の庭で収穫した野菜でピザ作りを行い、地域のネットワークづくりを積極的に行ってきました。

最後に、中高生世代に対する事業については、中学生の利用が非常に多く、午後5時以降の開館時間延長の利用は全体の半分ほどの利用者が中高生世代であり、日によっては小学生よりも中高生世代の利用が多くなっていました。毎週金曜日に行っている夜間開館では、料理行事が人気で、友達を誘ってグループで行事に参加していました。ボードゲームも盛んで、児童館のボードゲームや自宅から持ち寄ったボードゲームで友達同士遊んでいました。

中高生世代のボランティアをしてくれる子どもも多く、夏季クラブやじどうかんフェスティバルへの出店など、児童館行事を盛り上げてくれました。

令和6年度の貫井南児童館の事業報告は以上となります。

緑児童館 森

最後になりましたが、緑児童館の報告を行いたいと思います。森と申します。よろしくお願ひいたします。

昨年度、貫井南児童館の職員でこの4月に異動してきましたので、緑児童館の報告については、データ上の報告とそれによる多少の分析ということで御了承いただくようお願ひいたします。

緑児童館は、小金井第三小学校、それから、一番近隣にあるのは緑小学校で、どちらも小金井市内の中では最も多い部類に入る在籍児童数の小学校であるということで、小学生の利用も最も多いように思いますが、実際については、小学生の利用は4館の中で最も少ないと思われます。令和6年度なんですが、5年度と比較しても、実際1,000人ぐらいは少なくなっている傾向が今のところ、数字として表れております。

乳幼児の活動についても、東児童館が基本的には毎日行っていますが、時間は短いですけれども、緑児童館についても月曜日から土曜日までは午前中及び

午後3時まで子育てひろば事業を行っております。ですが、基本的にはやはり地域的に、小学校もそうですが、保育園に入る、またはその後、学童保育所に入所する子どもたちが多いこともあり、それが一つの原因となり、来館者数に結びついていないのではないかと考えられます。全体的に利用者数が、開館日は基本的には一緒なんですが、全体で1,000人ぐらい減ったんです。1,000人減ったのは、分析すると小学生の減ということになるので、中学生とかを含め、その他はそれほど変わりませんが、小学生の利用が若干減ったなと感じます。

それはもう一つ理由がありまして、今言いましたが、学童保育所の入所数が増えております。入所枠については、一応併設施設としてなっていますが、学童保育所の部屋の中で収まり切らなくなって、昨年度は児童館の遊戯室を平日、学童保育所に貸していた形になっていたので、その辺で子どもたちの遊び場として人数が減というところになってしまったのではないかと思います。ただ、秋以降に学童保育所のその分の保育場所をほかに変更することができたので、現在は遊戯室は児童館が使って、基本的には思い切り遊べるようにはなっていますが、ただ、学童保育所の入所者数が多いということが児童館の来館者数に多少の影響があるということは一番大きなことだと思います。ただ、3年生になると、学童保育所を途中でやめる子もいるので、その分、昨年は2年生に比べて3年生の利用者数が倍いるというのはその辺もあるのではと考えております。

また、行事については、全体的に児童館の中で活動してくれていた行事の活動の保護者たちが、そのまま自分たちの趣味等を生かして、ボランティアとして工作とか料理を教えてくれるというのが伝統的にありました。コロナを契機にその辺が衰退しまして、今、若干そういう行事の活動がなかなか地域の中の活動として根づいていかない部分があるので、その部分については職員が代わりにやるような状況にはなっておりますが、緑小学校と第三小学校の放課後子ども教室がすごく活動が活発にやられていることもあります。そちらの方たちと連携しながら児童館で行事を行ってもらうとか、そういうものをやっているので、根本的には地域と連携しているという、児童館の中でそういったボランティア活動を推進していくことよりも、地域の人たちと手をつないでいろんな行事に結びついていくというふうに、そこは方針として考えております。

あと、中高校生ですが、東児童館と貫井南児童館で週1回の夜間開館事業を行っておりますが、緑児童館については、令和6年度について、学期に1回という夜間開館の試みを行いました。その結果、それなりの人気と来館者数もありまして、令和7年については今現在やっておりますが、月1回のそういったイベントを基本とした中高校生のための事業を行っています。今後も地域等の理解も得ながら、引き続き貫井南児童館のような形になっていけばいいかなと思っております。

以上です。

平岡課長

事務局から補足をさせていただきたいと思います。本日、お手元に簡単な資料等を御用意できればと思ったんですが、資料の用意ができず、大変申し訳ございませんでした。

総括をしますと、各年、各児童館ごとに地域の特色を生かしながら運営をしてきたところですが、特に中高生世代の来館の新たな取組をそれぞれ、本町児童館や緑児童館で学期に1回というところではございますが、チャレンジをしてきたところでございます。かなり中高生世代の反応が、参加者が本当に喜んでくださったというイベントになりました、様々中高生の居場所が今問題となっていて、公共施設の安心・安全な場所の確保という面でも、今後児童館の在り方の検討の大きな一つの方向性になるのかなと感じております。

事務局からは以上でございます。

荻上会長

補足も含めてありがとうございました。ただいま令和6年度の児童館事業について御報告いただきましたけれども、御意見や御質問があればお受けしたいと思います。皆様、いかがでしょうか。

新井委員

それでは、1つ質問です。新井ですけれども、お尋ねします。今それぞれの児童館からの事業の御説明があったんですけども、質問の第1点は、イベントやら行事やら活動しておられるわけで、乳幼児から高校生までいろいろあるんですけども、質問は、児童館のそういう活動は毎日やっているのかということと、時間的に毎日やっているんだとすれば、何時から何時ぐらいまでおやりになっているのかということを教えていただきたいんですけども。後で、質問になるかどうか分からないですけど、先ほど出てきた学童保育との関係というのはどうなるのかということがちょっと気になっているんですが、取りあえず今の質問としては、毎日児童館は開いているのか、開かないときもあるのかと。それから、時間的にどのくらいの時間帯で開設しているのかということを教えてください。

本町児童館 鈴木

本町児童館の鈴木です。まず、児童館の開館日は、月曜日から土曜日まで開館しております。日曜日、祝日、また月末は閉館しております。そして、児童館の開館時間は基本的には朝9時から夕方5時となっております。今、試行で開館延長として、小学校4年生児童に対して午後5時30分まで開けております。

東児童館は毎日6時まで開館しています。毎週水曜日に午後8時まで開館しています。

貫井南児童館は、毎週金曜日に午後8時まで開館しています。

先ほども申し上げましたが、本町と緑に関しては、令和6年度、学期に1回年間3回、午後8時まで中・高校生世代のための夜間開館というのを開きました。

開館日・開館時間のご案内については以上です。

イベントに関してご案内します、乳幼児に対しては、各館で時間がそれぞれ異なっております。大体午前9時30分から午後1~4時といったところで乳幼児ひろばを開催しております。

東児童館に関しては、午後4時まで毎日常設ひろばを開催しております。

小学生や中高生のイベントに関しては、それぞれ来やすい時間に設定しておりますので、土曜日の午後でしたり、中高生に関しては土曜日だったり夜間だったりということで、それぞれの児童館で対象児童が来やすい時間に設定しておりますので、一律何時から何時ということはありません。

最後にグループ活動について、どの児童館も行っていますので、何曜日は小学校1年生から3年生までの低学年、何曜日は小学校4年生から6年生までの高学年、乳幼児のグループ活動も曜日で設定しておりますので、それぞれ資料等で御覧いただければと思います。

以上です。

どうもありがとうございました。

ありがとうございます。新井委員、今のでよろしいでしょうか。

結構です。関連して、もう一つお尋ねしていいですか。

はい。

さっき一言触れたんですけども、児童館の非常に大きな活動が今実際行われているわけですけれども、私自身が学童保育の内容をよく理解していないところがあるんですけども、学童保育、要らないんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

事務局の平岡です。学童保育というところなんですけれども、原則、学童保育は保護者が働いていらっしゃって、1人で過ごさなければいけない状態のお子様に関して、お預かりをしているというところで、学童保育は月曜から土曜日までで、学校が1日お休みの日は朝の8時から、基本的には5時まで、延長の保育がどうしても必要な方は夜7時までお預かりをしています。

対象のお子様は小学校1年生から3年生まで、障がいがあるお子様に関しては4年生までお預かりをしているところで、今現在、児童館で学童と併設をしている館が、貫井南児童館を除いた3館になっております。

多分、新井委員の御指摘というのが、今、様々な子どもの居場所というところで拡大をしており、児童館もそうなんですけれども、地域の皆様のお力添えで、例えば、放課後子ども教室ですか、学校でお教室を借りて勉強を教えてくださるボランティアの方ですか、様々居場所が広がりつつはあるんですけども、今現在、共働きでどうしても長時間、特に夏休みとか学校がない長期休暇のときですか、そういうときに子どもを預かってもらえるところが必要であるという訴えをしている保護者の方が大勢いらっしゃるところで、新井委員がおっしゃってくださいましたとおり、学童保育が本当に必要な方と、あとは多様な放課後の子どもの居場所を確保することで、学童保育以外の子どもたちが安心・安全に遊べる場所の確保というところを、今、部局を超えて検討しなければならないところに来ているかなと思っています。

以上です。

分かりましたけども、新井ですが、もう少ししゃべると、児童館の活動というか、児童館の内容を充実されたら学童保育になるんじゃないかと思うんです

けど、どうなのかと思うんですよね。学童保育というのは、地域にもよるんですけどけれども、時間的に、御両親から見て、もうちょっと長く預かってほしいとか、いろいろそういう問題があるようですが、小金井はどうか別として。児童館の今のお話の4館の充実した活動を、予算の関係もあるだろうけれども、さらに充実させると、すばり言って、学童保育は要らないんじゃないかなと思うんですよね。そのところは、今この席でこのメンバーの方たちが検討するんじゃなくて、市としてどうなのかというはあるんじゃないかなと思うので、これはかなり個人的なあれですけれども、そういう提案とは言わんけれども、市に対してそういう点の検討もする必要がある。これだけ児童館がしっかりしていると、そういう感じがするわけです。

もちろんほかの自治体との関係というか、自治体との比較で小金井がどうなのかという問題はあるんですけど、一般的に学童保育は非常に問題をいろいろ抱えているんですよね。市長が辞めたりするようなことまで起こるわけだから、もう少し検討する必要が市としてあるのではないかという、非常に初歩的などいうか、素人的な発想はあるので、検討されたらいかがかなと思います。

平岡課長

事務局、平岡です。本当に貴重な御意見ありがとうございます。いたいたとおり、放課後の子どもの居場所の多様化と充実を図るところが、市全体として考えいかなければいけない重要なテーマだと捉えておりますので、まずは児童館の在り方というところで、また次の議題にも関与するところではございますけれども、子どもたちの意見を聞きながら、どうやったら充実が図れるかというところも検討してまいりたいと考えております。ありがとうございます。

分かりました。

新井委員、ありがとうございます。ほかの委員の皆さんから御質問あるいは御意見などあればいただければと思いますが、いかがでしょうか。

新井委員

荻上会長

飯島委員

新井委員、ありがとうございます。ほかの委員の皆さんから御質問あるいは御意見などあればいただければと思いますが、いかがでしょうか。

飯島です。質問ではないんですけども、夏休みのわんぱく団が非常にすばらしくて、声に出してお伝えしたいなと思いました。自分の子どももわんぱく団に数年前に参加させてもらって、その内容を親として見させていただいて、今年はこういった審議会の委員としての視線で見させていただきました。とても暑い時期で、雷とか起きる可能性があるという時期の中で、計画から実行にかけて非常に綿密な準備をされていたというのは本当に感動しました。なので、少ない予算の中で実施された大事業だと思うんですけども、外遊びであったり自立を促すとか、仲間と協力し合うという部分ではとても価値のあるイベントだというのを感じましたので、ぜひこれは続けていただければ、小金井らしさという事業としては本当にすばらしいイベントだと感じました。子どもたちも、最高に疲れて最高に楽しいというのが、そういうふうに感じてくれたのかなという部分では感銘を受けましたので、本当に職員の皆さん、いつもありがとうございますという気持ちで拝見しました。

以上です。

荻上会長

飯島委員、ありがとうございます。こういう審議会ですと、どうしても課題とかを指摘する会話が多くなるかと思うんですが、今みたいに、よかったとこ

ろをきちんと、記録に残る形で御発言いただくことはそのこと自体が強みになるかなと思いながら伺いました。何か事務局の方から、今の御発言に関してありましたら。

本町児童館 鈴木

本町児童館の鈴木です。昨年度までのわんぱく団と、今年度実施しようとしている令和7年度のわんぱく団で少し違いがありまして、昨年度まではわんぱく夏まつりという市民団体と協力して行っておりましたが、令和6年度にその団体が解散いたしまして、今年度からは児童館単独で児童館事業としてわんぱく団を行っていかなければならないということで、全て協力してやってきたことを自分たちで賄わなければならぬので、また一步、新たなわんぱく団をつくり上げるという意味では、職員総出で今までの質を落とさないように行っていく所存でございます。

以上です。

荻上会長

ありがとうございました。ほかに委員の皆さんから何かコメント、御質問あればお願ひいたします。

村澤委員

村澤です。児童館のイベントですが、申込みとかが数秒で埋まるときも孫とか近所の子どもたちから聞いておりまして、もらってきたチラシというか、それを見て、電話の前で時間になつたらセットしていまして、参加できることを、ああ、駄目だったとかって一喜一憂しております。それだけ楽しいイベントを企画してくださっているのだろうなと思いました感謝しております。ありがとうございます。

荻上会長

村澤委員、ありがとうございます。今の御発言に何かございましたら、お願ひいたします。

本町児童館 鈴木

本町児童館の鈴木です。児童館、イベントごとに申込み方法が違いますが、人気のあるものはすぐに埋まってしまうものも多くて、以前まで電話申込みもしくは直接来ていただくという形を取っていましたが、今、どの児童館でもスマホでQRコードを読み取って申込みをしていただく形になっております。開始時間等も詳細に記載しております、申込みがすぐに埋まるものに関しては抽選を導入しております。抽選になって、平等に入れるように考慮しております。よろしくお願ひします。

以上です。

荻上会長

ありがとうございます。ほかに委員の皆さんから御発言ございましたらお願ひいたします。よろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは、議題1につきましては以上とさせていただきます。

続きまして、議題2、児童館の在り方検討についてを議題といたします。

それでは、事務局から御説明をお願いいたします。

清水係長

前回審議会の際に、児童館の在り方を検討するに当たり、令和6年12月に改訂された児童館ガイドラインに新たに明記された児童館の役割のうち、中高生世代の居場所については、子ども目線での見直しが必要となる内容であることから、中高生世代を対象に開館時間、設備及び事業内容等についてのアンケート調査を行いたい旨の御説明をさせていただいたところですが、今回事務局

においてアンケート案を作成いたしました。資料Ⅰがアンケート案になります。中高生世代が対象ということで、従来の紙ベースでのアンケートとともに二次元バーコードを読み取ることで、電子でのアンケートもできる形を取らせていただきました。アンケート調査項目等については資料Ⅰを御確認ください。

アンケートの実施時期につきましては、前回の審議会で御説明させていただいたとおり、6月下旬頃から7月をめどに実施したいと考えております。アンケートの配布方法や対象校等につきましては、別途教育委員会と調整の上、依頼をさせていただく予定です。また、高校生年代につきましては、児童館利用者等に配布並びにアンケートの下部にあるとおり、中学生対象者の兄弟姉妹で高校生がいる場合は、高校生の御兄弟についても二次元バーコードからアンケートの協力をさせていただくようお願いを併記しております。併せて市内にある高等学校へアンケートの協力依頼を事務局から直接させていただく予定であります。今後事務局においてアンケートの集計を行い、次回の審議会において集計結果をお示ししたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上です。

荻上会長

ありがとうございました。ただいまの御報告につきまして、御意見や御質問などございましたら皆様からいただきたいと思います。いかがでしょうか。

太田委員

太田です。4つの児童館の利用想定というか、対象は、当然近隣の小中学校、高校生ということだと思うんですけども、他地区の児童館を利用することも可能なんですか。特に貫井南は音楽スタジオがあるということなので、それを知らない他地区の子どもたちがそういうところを探しているという人がいるならば、周知があると喜ばれるんじゃないかと思ったんですが、いかがでしょうか。

荻上会長

ありがとうございます。では、事務局からありましたらお願ひいたします。

本町児童館 鈴木

本町児童館の鈴木です。児童館は地区によって、ここを利用しなければならないということはないので、市内どこの児童館に誰が行ってもいいようになっております。中・高校生世代で音楽スタジオのことを知らない利用者が、他の児童館を利用していたときに、職員から声かけをして、バンドスタジオがあるよということで御案内することはあります。それから、おたよりに書いてあるとおりですが、おたよりはインターネット上で閲覧することができて、誰でも閲覧ができるようになっております。

以上です。

荻上会長

太田委員、今の、以上でよろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

太田委員

ありがとうございます。

荻上会長

では、ほかの委員の皆様からも御発言、御質問などございましたらお願ひいたします。

では、私も発言させてください。委員の荻上です。よろしくお願ひいたします。今回、先ほどの御説明の中で、あるいは前段の児童館事業の中での質疑のやり取りとも少し関連するところがあるかと思いますが、1つは、社会的に子

どもの居場所が様々な形で求められる中で、国の施策としてもこども家庭庁ができたり、学校教育のこと、保育事業、シンプルな形ではなかなかならない難しいという中で、児童館もこれからの役割の在り方をまさに考えていくために今回のアンケートを取りたいということが背景だと理解しております。

そんな中で、1つは今回のアンケートをする中で、今までに比べて、特に中高生、利用者の世代がより広がることを想定したときに考えられるのが、例えば、小学校低学年と高校生ですと、同じ子どもとはいえ、体格も違いますし遊び方も違うというところもありますので、そんな中で1つの施設の中でどのような形でみ分けをしていくのかというところが1つ目の課題としてはあるのかなと思います。そんな中で、今回のアンケートの中でどんなところを課題感としてお持ちかというところをお聞きしたいと思ったのが1点目です。

2点目が、当然利用者が広がると、先ほど児童も利用できるかというお話もありましたが、同じ市内でも地区が変われば、高校生にとっては大した距離ではないかもしれませんけれども、例えば、小学校低学年にとってはちょっと遠かったりする。いろんなところにいろんな形で子どもが居場所を求めて行き来するようなことも今後起り得ると想定したときに、2つ目に課題として出てくる可能性があるのが安全面かなと思います。安全面について、こういうアンケートも通じて、どのような形で想定をしたり、あるいはこんな対策を取っていきたいみたいなことをお考えなのかというところも、アンケートからより広がってしまうところもあるかもしれませんけれども、もし御発言いただけたらなと思いました。よろしくお願ひいたします。

平岡課長

御質問ありがとうございます。事務局の平岡です。まずは、1点目の低学年の遊び方の違いとかみ分けはというところになります。一応設問7に時間帯とか、また設問6に利用頻度等を書かせていただいております。それぞれ子どもやその世代に特化した居場所を常時それだけ確保するのが難しいという実情もありますので、実際はタイムシェアみたいな形で、時間帯に応じた多世代で過ごす児童館という形にはなると思います。

それと同時に、先ほど1番のほうで事業の説明をさせていただきましたが、多世代交流の場として、中高生の方が小学生と遊んで、児童館の中ですごく頼りにされたりとか、どうやって多世代交流を生み出してイベントを図れるのかというところも1つの視点として、両軸でやっていく必要があるのかなと思っています。

質問の2点目でございます。地区を越えて子どもが行き来をするというところの安全面でございますけれども、そちらも私どもも気になっているところでございまして、先進市とか他市の状況を確認いたしますと、例えば、入退館をシステム化しまして、どの子がいつどこの児童館に入って、どこの児童館から帰ったとかというのが親御さんにメールで行くようなシステムを導入されている児童館もあるようです。私どもも、開館時間の延長ですか、中高生世代も含めての利用というところになりますと、やはりその辺りの導入の検討が必要なのではないかなとは考えているところでございます。

以上です。

荻上会長

委員の荻上です。ありがとうございました。私からも2つコメントさせていただきたいと思います。1点目が、いろんな世代が同じ場所で交ざるようになってくることに関して、多世代交流というコメントがございました。これはアプローチの仕方としてはすごく大切なことかなと感じております。どうしてもいろいろな新しいことを考えるときに、リスクを抑えるほうを優先して、あれは駄目、これは駄目ということになることが多いかと思うのですが、そういうリスクとか、あれは駄目、これは駄目ということだけではなく、逆に交ざることの可能性とかよさみたいなところに前向きな向き合い方というのはすごく大切な思います。そんな中で、全てを大人と子どもだけの関係で捉えず、子ども同士の世代を越えた、小学生と高校生だと中学生と高校生だと、いろんな世代を越えるという発想はすごく大切だなと思いました。

また、2点目の安全面のところでの、例えば、入退館システムをというような御発言もございましたけれども、まさに今、いろんなところでも、特に民間事業者なんかでは、入退館のお知らせサービスなんかも広がってきてているかと思います。しかし、こういうシステムを導入しようとすると予算が必要になりますので、簡単な話ではないかと思いますが、逆に何かが起きてからでは遅いというところはありますので、こういう安全対策みたいなところも積極的に考えていただければと思います。例えば、それを4館だけで考えるとなかなか難しいみたいな場合には、市内の、同じく子どもの居場所をより広い意味で担っていくことが期待されるほかの公共施設なども含めて考えていくことで、より導入の可能性が広がっていくといいのかなと思いました。

以上です。

平岡課長

ありがとうございます。

荻上会長

すみません。会長の発言が長くなってしましましたが、何かこの議題に関連して、ほかの委員の皆様からも御発言、御質問などあれば、ぜひお願ひいたします。

平岡課長

事務局の平岡です。もしよろしければ、アンケートにあって何か思いつく御意見等がありましたら、今日、時間があまりないので、例えば、今日の夜とか明日の午前中ぐらいまで、メール等でも構いませんので、お寄せいただきまして、最終の調整につきましては、事務局で調整いたしまして、委員長御一任というところで御理解いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「結構です」の声あり)

平岡課長

では、何かお気づきの件等ありましたら、申し訳ございませんが、明日の午前中ぐらいまでにメール等で御意見をいただければと存じます。よろしくお願ひいたします。

荻上会長

ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。では、ほか、皆様、いかがでしょうか。

村澤委員

村澤ですが、例えば、貫井南児童館なんですけれども、そこで健全育成のイベントを行ったときに話に出たんですが、大通りに安全確認をあまりせず、子

どもが飛び出しちゃうというのがちょっと問題になったんですね。それで児童館でも、例えば、利用したお子さんが帰る際は、敷地を出る際は安全確認が必要だよとか、してから道路に出てねとか、そういう呼びかけはしているのか、貼り紙とかも必要なのかとか、そういうときにスタッフで前原小と四小が利用していたので、それぞれの学校に呼びかけようということがありまして、副校長にお伝えするということになって、私は全然目撃してないんですけど、車の通りも結構あるんですね、あそこ。だけど、楽しいものですから、子ども同士、一遍も安全確認しないでわーって飛び出したりして、随分危ないわよねという話は学校にお願いしましようと呼びかけを。そのときに、例えば、立札をつけるとか、そういうのって市のほうにお願いするのかななんて、そこでちょっと話があったんですけど、何なんだろうということで、ちょっとお考えいただければと思います。

平岡課長

事務局の平岡です。一応、職員からの声かけと館の敷地内の立札みたいなところはやっているんですけど、それでも子どもが楽しくて……。

村澤委員

そうなんですよね。ついつい。

平岡課長

そうですよね。再度私どもからも、職員から、危ないんだということで声かけを徹底するようにいたしますので、すみません、本当にご指摘ありがとうございます。

村澤委員

どうぞよろしくお願ひいたします。

平岡課長

よろしくお願ひします。

荻上会長

ありがとうございます。ほかには皆様、いかがでしょうか。

飯島委員

飯島です。本当にそのとおりだと私も思いまして、声かけというのも1つお願いしたいということなんんですけど、逆を言えば、あの通りに児童館ありみたいなのを、三鷹市とかは子どもがこういう、何ていうんだろう、子どもが出るよというような、子どもの危ないところに立てかけているんですよね、そういう看板を。車に対しても、近くに児童館があるという、知らないであの道は国分寺に抜ける主要な道ですから、本当に危ないから、ダブルフォローで、もしかしたらちょっと看板みたいのを立てたほうがいいかもしないですね。

平岡課長

事務局の平岡です。御意見ありがとうございます。道路に看板をつけるとかは警察署の許可とか様々要るかもしれないで、その辺りも確認しながらなんですが、まずは敷地内でもうちょっと、何かできないかというのは考えてみます。本当に貴重な御意見ありがとうございます。

荻上会長

ありがとうございます。委員の荻上です。今の、意外に確かに、安全が大事なのは分かっていても、いろんなところの話が通らないと最後実現しないみたいのがどこの自治体でも多いと思いますので、やっぱり皆さん、1つは皆さんのが今みたいに粘り強く声を上げていただくというところはすごく大事かなと思いましたので、いろんな立場でお声を上げていただき続けるといいのかなと思いました。ありがとうございます。

ほか、皆さん、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。先ほど事務局からもお話をございましたが、アンケートにつきましては、明日午前中ぐらいまで

に、何かお気づきの点がございましたら、ぜひ御連絡いただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。それでは、議題2につきましては以上とさせていただきます。

では最後、議題3、その他になりますけれども、事務局から何かございますでしょうか。

清水係長

次回の日程について説明をさせていただきます。次回の審議会の日程につきましては、9月から10月頃を予定しております。日程等詳細が決まりましたら改めて御連絡させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

以上になります。

荻上会長

ありがとうございました。その他の議題になりますけれども、何か委員の皆様から改めて御発言などございましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、今ございましたけれども、今回が現任期の審議会としては最後となりますので、もしよろしければ、本期、委員を務めていただきました皆様から一言ずつコメントをいただければと思っております。どうしてもこういう、最後に一言というと、ちょっと重苦しいところがあるかもしれません、審議会委員に参加してみての感想ですとか、あるいはこれから児童館に期待することなど何でも結構ですので、少し御発言いただければと思います。

今、オンラインで参加いただいている伊藤委員も、もしお声を出せるようでしたら、順番に回していきたいと思いますので、御準備お願ひできればと思います。

では、私に近いほうからで恐縮なんですが、太田委員からよろしいですか。順番に、よろしければぜひお願ひいたします。

太田委員

太田です。児童館が、私は子どもがお世話になったことがあって、保護者として緑児童館に参加したことはあるんですが、子どもが児童館に行かなくなると非常に遠い存在になっていたんですが、青少年健全育成のイベントで使わせていただいたときに、久しぶりに中に入って、あらま、こんなにきれいになってというふうに思ったのは、乳幼児の施設がとてもきれいだったというイメージがあるのと、それから、不要品の自由交換コーナー、あれも感動しました。なので、これからありようというのは、確かに共働きの方が増えたり乳幼児を児童館に連れてくるよりも保育園に入れるとかが増えるという実態の中で、やはりからの児童館の在り方をこれからの方々が話し合う貴重な場にここはなるべきだなと思っています。ありがとうございました。（拍手）

荻上会長

ありがとうございました。

このまま順番でお願いいたします。

村澤委員

村澤です。私が審議委員を務めさせていただいた頃、コロナ明けみたいな、明けたのか明けないのかなみたいな感じだったんですけど、それで活動報告も、活動ができてないというのが多かったんですけど、今回してみたら、随分と乳幼児とか小学生のイベントの参加人数が元に戻っているというか、すごく活発に行われているのがすごくよかったです。やっぱりみんなの活動

している様子を拝見していると、みんなも活動できるのをすごく待っていたんだなというのが伝わってきまして、それで小金井市には児童館があるということで、市民の皆さんもそれを利用できてすごくいいことだ、幸せなことだと感じましてよかったです。

以上です。（拍手）

荻上会長

飯島委員

飯島です。私も子ども会などを通して、児童館をいろいろ利用させていただいたり、あとは地区行事などで児童館の器具を貸していただいて餅つきをしたりとかということで大変お世話になっています。小児の発達のほうで、私、仕事をしている関係から、ほかの市の児童館を見ることがあるんですね。やはり国立の矢川プラスという立派な施設であったり、府中市の施設も非常にお金をかけているというので、どうしても小金井市は、古いとかいうところでマイナスの部分が、ないものねだりで見えてきてしまうんですけども、ただ実際、小金井市の児童館に入らせていただくと、こうあったらいいのになという気持ちの中でも、少ない予算の中で手をかけてしっかりされているというのは、この1年を通して分かりましたし、逆に、ほかの児童館から比べて、小金井市の児童館の充実度というのは、外の活動の充実度がすばらしいと思います。

先ほどわんぱく団のお話はさせていただいたんですけども、児童館のイベントを見てみると、星空観察であったり、月に1回の武蔵野公園での活動とかというのは、ほかの市の児童館ではあまりやっていない事業なんですね。恐らく小金井市の児童館の狭いとか古いとか、いろいろな中から、外に目を向けていこうというのがずっと昔からあったのかもしれないですし、非常に公園が充実しているというプラスの面が働いたと思いますので、ぜひそういう外の活動は、ほかの市と比べても非常にすばらしい活動をされているというのを誇りに思って、ぜひこれからも邁進していただければと思います。

以上になります。（拍手）

荻上会長

山本委員

山本です。昔、児童館に通っている、通っているというか、いっぱい遊んだりして、それで大学生、一応まだ大学生なんですけど、ボランティアとして参加していて、それで御縁があって、こちらに参加させていただいたという感じになるんですが、こういうちゃんとした計画というのを知らずに、今まで利用したりボランティアをしたりというのをしていて、自分が昔楽しんでいたのは、このような綿密な計画という感じだったり、少ない予算でも外だったり、いろんな方々の合同だった、うまい調整で、いい思い出をつくっていただけたんだなというのを改めて知ることができて、参加できてよかったです。

今後は、自分ももう参加する側という感じではなく、子どもを見守る側に回っていくという意識を持たないといけないなというのも改めて認識できたので、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。（拍手）

新井委員、お願いいたします。

荻上会長

新井委員

新井です。2年間、この委員をやらせていただいた、その感想ですけれども、

最初の頃に、くじら山のイベントも見学させていただいたんですが、それらも含めて感じていますことは、児童館の皆さんスタッフの方たちの活動の仕方が非常に感動的というか、一生懸命やっておられることを非常に感じまして、それに感銘しています。だから、いろいろ今お話しになっている予算の関係とかあるんだと思うんですけども、何より子どもたちに対して非常に寄り添ったというか、自分の体とか時間を犠牲にはしてないのかもしれないけど、全てをそれにささげるというか、かけているという感じが非常にしますので、その点は感銘しています。どうもありがとうございました。（拍手）

荻上会長

では、オンラインで参加いただいている伊藤委員、もし声を出せるようでしたらぜひお願ひいたします。伊藤委員、もしよろしければ、ミュートを外して、最後一言御発言いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

伊藤委員

ありがとうございます。参加させていただきまして、児童館の皆さん本当にきめ細やかに子どものことを考えながら運営されていることを改めて知ることができて、非常にすばらしいなと思いました。時代がすごく変わっていたりとか、コロナを越えてというところで、新しくまた再構築されているところかなというのもすごく感じまして、これからまた今回の中高生のアンケートなんかもそうですけど、幅広い世代の子どもたちが健やかにといいますか、過ごしていくけるように、ますます発展していくんだろうなというのをとても楽しみにできるなと思いました。ありがとうございます。（拍手）

荻上会長

伊藤委員、オンラインからありがとうございました。

では、私も委員の一人ですので発言させていただければと思います。改めて2年間、どうもありがとうございました。会長職を拝命して、実際この審議会をどれだけきちんと運営できたかというところは甚だ心もとないところはございますけれども、皆様に御協力いただいて、中身のある充実した審議会にできたのかなと思います。委員の皆様、また事務局の皆様、本当にありがとうございました。

私も今、職場としては、すぐそこの学芸大学にいるということもございますけれども、いろんな意味で、今日もお話しになっていました子どもの居場所の在り方とか、あるいは教育と保育の在り方とか、それぞれの皆さんのが育ってきたときに経験していること、その経験に基づいて、こういうものだよなと思っていることがすごい勢いで変わっています。そのような中で、児童館も変わっていくというか、ある意味、激流の中で改めてどんな役割を求められ、そして果たしていいけるのかというのが大きな動きとしては今直面していることなのかなというのを、この審議会の委員として参加する中で、具体的に感じることが私自身もできました。

どうしても、特に大学みたいなところにいると、全体的に俯瞰をするような役割が必要だということで、俯瞰しようとすると、どこか頭でっかちだったり、頭で考えるみたいなところが出てきてしまいます。頭で考えるだけではなく、心で感じたり、あとは手足を動かして体で感じるみたいなところはすごく大切なところだなと思いますので、先ほど山本委員からも、学生としてという

お話をございましたが、身近なところにある大学の、学生を抱える身でもありますので、その学生も含めて、あるいは学生と一緒にいる自分の立場も含めて、考へるだけではなく、感じたり行動をする、体を動かすことを通じて、児童館を含めて直面しているところに向き合っていく一員に改めてなっていきたい、あるいはそういう学生を一人でも多く関われるような機会をつくっていきたいと改めて思いました。

話が長くなつて申し訳ないですが、私自身も今、まだ子育て真っ最中ということで、下の子たちは児童館も利用する学年ですし、上の子もそろそろ微妙な、まさに今日話題になっている、これから世代を広げていくと利用者になるような世代ということもありますので、一親としてもこの問題には向き合いながら、自分事として考えていきたいなという思いを改めてさせていただきました。改めて2年間、どうもありがとうございました。（拍手）

皆様、御発言いただきましてありがとうございました。この任期、このメンバーでの審議会としては最後になりますけれども、もし言い残した、これは言っておきたい、伝えておきたいということがあれば、いただければなと思います。皆さん、大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回小金井市児童館運営審議会を閉会とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。